

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立小山台高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 副校長、庶務・広報部主任、経営企画室長 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長〔協議会会長〕、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務部主任）、主幹教諭（生徒部主任）、主幹教諭（進路部主任）、主幹教諭（養護）、主任教諭（庶務・広報部主任） 計8名
- (4) 協議委員の構成
大学教授（学識経験者）、教育研究所副代表（卒業生保護者代表）、同窓会副会長（卒業生代表）、公益財団法人事務局長（関係団体代表）、品川区立中学校長、大田区立中学校長、品川区立小学校長（以上近隣小中学校長3名）、PTA会長〔協議会副会長〕、PTA副会長〔協議会副会長〕（以上保護者代表2名） 計9名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1回～第3回）の開催日時、会場、出席者、主な議題等
 - ＜第1回＞令和6年6月28日（金）午後4時から午後5時まで 校長室にて
（出席）外部委員来校8名、内部委員・事務局8名
（主な議事）協議委員の委嘱及び自己紹介、学校経営概要説明、校務運営状況及び令和6年度1学期教育活動報告、校務分掌各部からの報告、評価委員選出、意見交換・協議
 - ＜第2回＞令和6年11月22日（金）午後4時から午後5時まで 会議室にて
（出席）外部委員来校8名、内部委員・事務局8名
（主な議事）校務運営状況及び令和6年度2学期教育活動報告、校務分掌各部からの報告、海外学校間交流事業によりドイツ・カニジウス校と姉妹校提携を締結
令和6・7年度学校評価アンケート実施方法及び内容について、意見交換・協議
 - ＜第3回＞令和6年3月4日（水）午後3時30分から午後5時まで 会議室にて
（出席）外部委員来校5名、内部委員・事務局8名
（主な議事）校務運営状況及び令和6年度3学期教育活動報告、校務分掌各部からの報告、令和6年度学校評価アンケート集計結果について、学校評価に対する意見交換、協議
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、主な議題等
 - ＜第1回＞令和6年6月21日（金）メールにて検討し、学校運営連絡協議会に報告
（出席）外部委員2名、内部委員2名
（主な議事）評価委員長候補の選出、昨年度学校評価結果の分析・考察、今年度学校評価実施予定確認・内容検討、協議
 - ＜第2回＞令和6年11月15日（金）事前にメールにて検討し、学校運営連絡協議会前に確認
（出席）外部委員2名、内部委員2名
（主な議事）学校評価の観点・項目、学校評価アンケートの内容・質問文の検討、実施時期の確認
 - ＜第3回＞令和7年3月4日（月）事前に来校して検討し、学校運営連絡協議会前に確認
（出席）外部委員1名、内部委員2名
（主な議事）学校評価アンケート集計結果の確認、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
 - ・「授業等の学習に関すること」「学校生活に関すること」「学校の実践に関すること」について、教職員、生徒、保護者、地域関係者の回答を比較できるように設問の内容をそろえて実施した。
- (2) アンケート調査の実施時期、回答数／対象、回収率
 - ①時期：11月25日（月）から12月18日（水）まで
 - ②回答数
 - ・生徒：859人／947人 回収率：90.7%（前年比－8.7ポイント）

- ・保護者：437人／947人 回収率：46.1%（前年比－1.5ポイント）
- ・地域：48人（前年比＋5人）
- ・教職員：50人／57人 回収率：87.7%（前年比＋1.7ポイント）

（3）評価項目

- 評価項目は、授業、教科間連携、学習指導、学校生活、進路情報、生活指導、部活動、国際交流、施設・設備、情報公開、満足度、学校運営、働き方改革、いじめ、体罰、新型コロナウイルス対策、ICT教育とした。
- アンケートの質問への回答は、Microsoft Formsにより実施した。0365アカウントを所持している生徒・教員はログインして回答し、保護者・地域は無記名とした。地域は学校説明会の来校者に加えて、授業公開への来校者を対象とした。

（4）評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

○学習活動、指導体制について

- ・質問2（学習指導に関する項目）で肯定的回答の割合は、生徒による評価は3年間で、1～2ポイントの変化であるが、教員自身の評価は過去三年間で(R4)90%、(R5)96%、(R6)88%と乱高下している。一方、保護者回答に占める肯定的回答の割合は(R4)77%、(R5)79%、(R6)82%と少しずつ上昇している。
- ・質問5（学習意欲を引き出す授業に関する項目）では、生徒の肯定的回答が(R4)70%から(R5)74%に回復し、(R6)74%を維持している。教職員の回答は前年度比4ポイント上昇し88%になった。
- ・質問6（補習や長期休業中の講習に関する項目）では、生徒の肯定的回答の割合が68%で、令和4年度から毎年2ポイントずつ低下している。教職員も80%で4ポイントずつ低下しており、生徒の回答と同様の傾向を示している。ポイントの差は母数の差であると考えられる。昨年度の空調工事に引き続き、次年度は外壁工事が予定されているが、講習場所を確保する必要がある。
- ・質問7（学習と班活動との両立に関する項目）では、生徒の肯定的回答が(R4)52%、(R5)58%、(R6)60%と上昇を続けている。
- ・質問9（進路指導に関する項目）では、生徒の肯定的回答の割合が87%で令和5年度まで4年連続増加し、それを維持している。

○学校生活について

- ・質問11（生活指導に関する項目）では、教職員の肯定的回答が69%で7ポイント下降し、再び低下している。生徒は1ポイント下降、保護者は1ポイント上昇しており、小さな変動にとどまっている。
- ・質問13（班活動の充実に関する項目）は、生徒・保護者の回答は変動が小さかったが、教員の回答は(R4)98%、(R5)92%、(R6)88%と3年連続で低下している。

○その他

- ・国際交流の推進の項目では、肯定的な回答の割合が生徒(R4)59%、(R5)81%、(R6)84%と上昇を続けている。保護者も(R4)56%、(R5)75%、(R6)81%と上昇している。
- ・施設設備の項目では、生徒・保護者・地域の肯定的回答が増加した。
- ・ICT教育の推進に関しては、生徒の肯定的回答が92%と前年度比36ポイント上昇した。
- ・働き方改革に関する項目では、生徒・保護者ともに肯定的回答が4年連続増加した。

○記述式意見

- ・より質の高い授業を求める声、生活面に自由を求める声が多くあった。
- ・班活動の日数が多すぎるという声があり、学校から離れ、生徒自身の裁量で使える時間を必要としている様子がうかがえる。
- ・「学校をよりよくする」というよりも個人の要望や感想等の記載が多く、直接は相談しにくい、匿名で要望を述べ、学校に何とかしてもらいたいという様子が垣間見られる。学校評価アンケートの位置づけを説明しなおす必要がある。

（5）評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

○学習活動、指導体制について

- ・学習意欲を引き出す授業についての評価が改善しており、授業観察や進学指導重点校等の授業の視察を通じて教員の授業力が高まったと考えられる。
- ・講習場所の確保は引き続き課題である。同じ内容の講習を複数回行うなど、講習を受けやすい体制を充実させる。

- ・班活動との両立について、60%の生徒は両立できていると考えていることから、「学習と班活動の両立に悩む小山台生」というイメージはあるものの生徒の実感は改善していると考えられる。
- ・国際交流の推進について、小山台教育財団の国際交流事業に加えて、東京都の「次世代リーダー育成道場」に参加した生徒が帰国したこと、「都立高校生の海外派遣」でR5はインドネシア、R6はヨルダンへそれぞれ4人の生徒を派遣したこと、「海外学校間交流推進校（R5～）」の指定を受けドイツ・カニジウス校との姉妹校提携を締結したこと、それを終業式等で発表したことが影響したと考えられる。
- ・ICT教育の推進：急激な上昇であるが、Teamsの活用などを継続しており、生徒・教職員が端末やシステムに習熟したことが原因かと考えられる。次年度入学者が使用するスマートスクール端末の機種を変更することから、評価は次年度の調査結果を待ちたい。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

- （1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果
 - 進学指導特別推進校として、生徒、保護者、地域（近隣中学校等）の進学指導の充実に対する期待に応えるため、授業改善、生活指導・進路指導とキャリア教育の充実、進学実績の向上等について、引き続き組織的・計画的に実践していく必要がある。
- （2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題
 - 家庭学習時間が少なく学校経営目標との乖離が大きい。令和3年度には2時間以上学習する生徒が73%であったが、令和4年度に51%と急激に低下した。その後回復せず、現在は40%である。具体的な改善の手立てを講じることが必要である。
 - 高校入学以前の区立中学校への進学率が低く、小学生に都立高校の良さを伝えることが求められる。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

- （1）学校運営
 - 保護者コミュニケーションシステム「東京版 Classi」を活用して、保護者への情報提供に努める。
 - 新たに導入された「校務連携システム」を活用して、生徒の学習や出席の状況を適時把握し、効果的かつ効果的な指導を行う。
- （2）学習指導
 - 切り替えと集中を徹底し、紙の学習手帳だけでなくアプリを活用するなどして、生活習慣を身に付けるよう指導する。予習・復習を習慣化させ、家庭学習時間の増加・定着を図る。また、隙間時間を活用した学習を推奨する。
- （3）特別活動
 - 暑さ対策として運動会にミストマシンを設置したのは一定の効果があつたが、令和8年度以降は運動会の実施時期を9月から5月に変更する。また、十分な感染症対策を行い、行事による感染症のまん延を防ぐことができた。引き続き、熱中症対策・感染症対策を実施する。
- （4）生活指導
 - 生徒会と連携し、校則の見直し等に生徒の意見を反映できる体制を整える。
- （5）進路指導
 - 2学年で実施した志望校別の進路研究を継続するとともに、補習・講習等を実施することで第一志望を諦めない姿勢を育てる。
 - 東京都「探求的な学び推進事業」TIPS-Type 4を活用し、探究的な学びを深める。
- （6）健康・安全
 - 安心・安全且つ、体育的な活動に積極的に取り組むための環境の整備を進めるとともに、保健指導、安全指導等を充実する。
 - 新たに1名追加配置されるスクールカウンセラーを活用し、教育相談機能の充実を図り、心身の調和のとれた発達を促す。
 - 教職員の働き方改革をさらに実効性のあるものとし、保護者の理解を得る。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

- （1）協議委員人数 9人
- （2）学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう 思う	どちらと も言えな い	あまりそ う思わな い	そう 思わない	分からな い	無回答
4	3	0	0	0	0	2

(自由意見)

- ・校則の見直しは実施した後、生徒の意見をどう反映するのが課題である。服装の規定などはゆるめても校風が変わるようなことはないと思われる。
- ・現在の学生は校則を嫌がり、大学の学科選びでも自由度のある雰囲気を好む。
- ・学校評価アンケートの自由記述を見ると、学校をよくするためという趣旨から離れ、自己の不平不満を書いているものが散見される。

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 なし 企画調整会議 なし

8 その他

- ・Web アンケートの回収数増加のため、HR や PTA メール、外部での説明会等、あらゆる場面での協力を依頼する。